

水戸で関係者ら反対集会

専門家「事業目的は虚構」



漁業関係者ら約100人が参加した霞ヶ浦導水事業の反対集会＝29日午後、水戸市の茨城大

霞ヶ浦導水を問う

全国集会「霞ヶ浦導水事業はいらない！アユ・シジミ・サケ漁業を守ろう！」が29日、水戸市の茨城大で開かれた。那珂川水系で育まれる水産資源に悪影響が

及ぶとして、栃木、茨城両県の漁協が反対する同事業。漁協側が国に那珂川取水口の建設中止を求めた裁判が12月19日に結審することをにらみ、参加者は事業の問題点を確認、事業中止を求める決議を採択し、士気を高めた。

同集会は、事業反対を訴える専門家らによる実行委員会が主催。漁協関係者や市民、ダム問題に取り組み人計約100人を前に、茨城県那珂川漁協の君島恭一組合長は「那珂川の生態系を破壊する導水事業に断固反対。実力行使をもってでも阻止する」と決意を述べた。

裁判で争点となっている漁業権侵害については、2人の専門家が解説。霞ヶ浦生態研究所の浜田篤信氏は、酒沼の名産シジミの漁獲量は工事による河床低下と流量減によって減少すると指摘。「那珂川からの取水は大きな漁業被害を招く」と断じた。

魚類研究家の石嶋久男氏も、データを踏まえ「流量減が(漁獲量日本一を誇る那珂川の)アユの資源量減

少につながるため、導水事業は、放流などで漁業を維持してきた漁協の漁業権を侵害する」と訴えた。

また、高村義親同大名督教授は、裁判で国側証人が明確に答えられなかった同事業による水質浄化効果に切り捨てた。

科学的根拠がないと解説し、「事業目的は虚構」と(田面木千香)

差し止めへ署名活動

結審日、水戸で集会も

栃木、茨城の漁協

霞ヶ浦導水を問う

栃木、茨城両県の那珂川水系8漁協が国に霞ヶ浦導水事業の那珂川取水口建設差し止めを求めた訴訟で、原告の漁協側は1日までに、差し止め判決を求める署名活動を始めた。万単位を目指して年内か年明けにも取りまとめ、水戸地裁に提出する。漁協側は結審予定の19日、開廷前に水戸市内で集会と街頭パレードを行い、同事業への反対をアピールする。

なる。同事業をめぐる署名活動は、取水口建設の差し止めを求める仮処分申請時に10万人超を集めて以来。同事業は霞ヶ浦と那珂川、利根川を地下で結び、水を融通する計画。漁協側は、那珂川から最大毎秒15リットルが取水され、逆にアオコが発生し汚れている霞ヶ浦から那珂川へ同11リットルの送水が行われれば、漁獲量日本一のアユなどに被害が及び「生態系が壊滅的な打撃を受ける」と主張。国が8月、自ら行った検証作業で同事業の建設継続を決めたことには「全くの出来レース」と反発している。訴訟は19日に結審し、年度内にも判決が言い渡される見通し。

協議会の君島恭一代表は「漁協の使命の一つは、継承してきた川を守り次世代へ引き継ぐこと」と署名協力へ理解を求めている。問い合わせは茨城県那珂川漁協、電話029・288・3034。(田面木千香)

2014.12.2

【新聞定価1カ月3,035円(本体価格2,810円、消費税225円)・1部売り120円(税込み)】

第3種郵便物認可

集会はホテル・ザ・ウエストヒルズ・水戸で同日午前11時から、パレードは正午から同市中心部で行う。署名活動は、本県の那珂川北部、同南部、同中央、茨木町の各漁協が県内窓口と

8漁協からなる茨城・栃木那珂川関係漁業協同組合